

有機ケイ素反応剤の特許

大

豪企業にライセンス供与 京

京都大学は22日、工学研究科の榎山爲次郎教授、中尾佳亮助教らによる含ケイ素有機クロスカップリング反応剤などに因る特許を、豪州の有機ケイ素化合物メーカー、A.M.T.にライセンス供与したと発表した。

A.M.T.は今後、試薬ベースで有機ケイ素反応剤をサンプル出荷する予定。同社は日米に販売網を持っており、日本では重松貿易（大阪市中央区）を通じて独占販売する。

技術は、毒性が低く入手が容易な有機ケイ素化合物を、パラジウムなどの触媒により有機ハロゲン化物とクロスカップリングさせて合成する。従来に比べ温和な条件下でクロスカップリング反応が可能の特長がある。

医薬・農薬の中間体や液晶材料などの安価合成につながると思われる。

試験売り上げの10%。同特許は日本、米、豪州で出願済み。

榎山教授が開発した

京大の有機化合物製造法 豪企業にライセンス供与

京都大学（京都市左京区）は22日、同大学が持つケイ素反応剤を使った有機化合物の製造方法の発明（特許出願中）について、オーストラリアの化学会社とライセンス供与の契約を締結したと発表した。京大は、大学が持つ知財を積極的に利用する姿勢を打ち出しており、発明で海外のメーカーとライセンス契約するのは今回で3例目。

ライセンス供与されるのは、有機ケイ素化合物と有機ハロゲン化合物を、水酸基を持つ特殊なケイ素反応剤を用いて結合させる技術。反応剤は安全性が高く、保存もしやすいなどの特徴があり、医薬品関連物質（医薬品中間体）の安価な製造法として期待される。

は、今月からケイ素反応剤をサンプル出荷する予定。契約では、売上高に応じてライセンス料としての京大の取り分が決められているという。

オーストラリアの会社がつくる製品は、日本でも貿易会社を通じて販売される予定で、すでに製薬会社などからの引き合いがあるという。

工学研究科の榎山爲次郎教授と中尾佳亮助教が発明した技術で、現在、日本のほか米、オーストラリアに特許出願中。

オーストラリアの会社

特許ライセンス 豪の企業に供与

京大、有機化合物製造技術

京都大は二十二日、特許出願中の有機化合物に関する製造技術について、オーストラリアの化学メーカーA.M.T.と独占的にライセンス供与する契約を結んだと発表した。期間は今年九月から七年間。供与するのは工学研究科の榎山爲次郎教授、中尾佳亮助教が開発した「含ケイ素クロスカップリング反応剤」およびこれを用いる有機化合物の製造方法。毒性が少なくさまざまな設計ができる有機ケイ素化合物を反応剤に

用いて、パラジウムなどの触媒反応により質の良い医薬品中間体や液晶の素材を合成する技術。日、米、オーストラリアで特許を出願している。

大学法人化後、京大から海外企業へのライセンス供与は三件目。